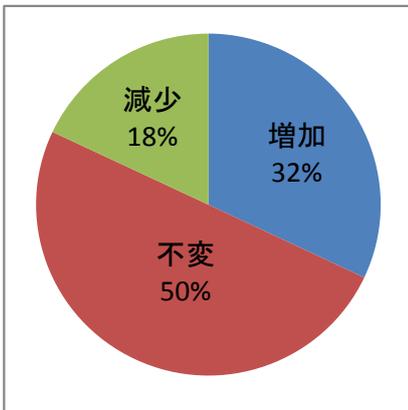


## ■ データから見た業界の動き

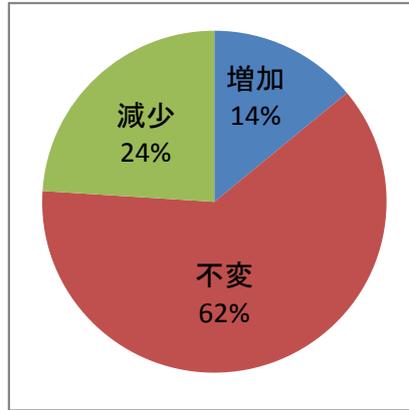
(平成25年3月分)

● 2012 / 3

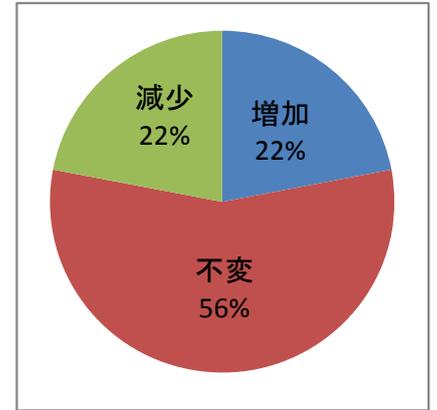
売上高(前年同月比)



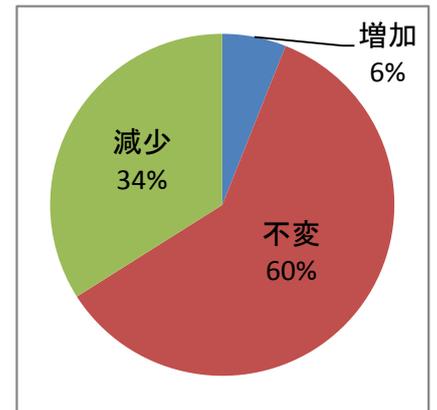
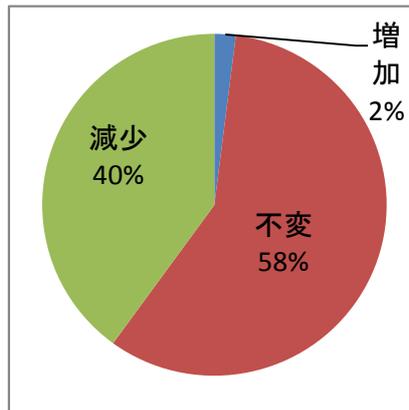
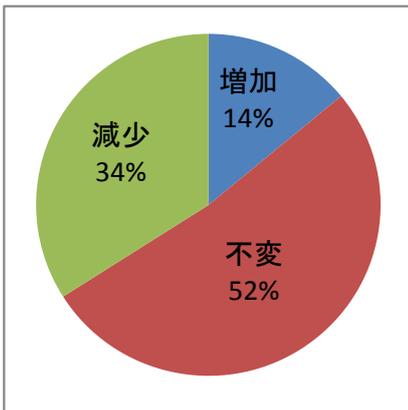
収益状況(前年同月比)



景況感(前年同月比)



● 2013 / 3



## ■ 対前年同月比及び前月比景気動向D I 値(好転又は増加の割合から、悪化又は減少の割合を引いた値)

対前年・前月・当月	製造業			非製造業			合計		
	2012/3	2013/2	2013/3	2012/3	2013/2	2013/3	2012/3	2013/2	2013/3
売上高	15	-35	-25	13	-23	-17	14	-28	-20
収益状況	-10	-40	-40	-10	-40	-37	-10	-40	-38
景況感	0	-30	-25	0	-40	-30	0	-36	-28

※((良数値÷対象数)×100) - ((悪数値÷対象数)×100)=D.I値

## ■ 概 況

本県の3月の景況は、全業種のD I値が、売上高-20（前年同月比-34）、収益状況-38（前年同月比-28）、景況感-28（前年同月比-28）となっている。業種別のD I値では製造業で、売上高-25（前年同月比-40）、収益状況は-40（前年同月比-30）、景況感-25（前年同月比-25）。非製造業で、売上高-17（前年同月比-30）、収益状況-37（前年同月比-27）、景況感-30（前年同月比-30）となった。

全体の前年同月比では、製造業及び非製造業ともに全ての項目で著しく悪化している。

しかし、前月比では製造業の売上高が10ポイント、景況感が5ポイント改善し、非製造業でも売上高が6ポイント、収益状況が3ポイント、景況感が10ポイントと全ての項目でD I値が好転した。

情報連絡員による県内の3月の業況報告は、円安、株高が進むなかで、安倍政権の経済政策「アベノミクス」への期待感がある一方、年度末の生産調整による受注減や原材料、燃料等の高騰により収益を悪化させているとの報告も多く見られた。

製造業では、原料等の値上がりによる売価への転嫁について検討している報告もあった。

非製造業では、米国産牛肉の規制緩和による需要増への期待や東日本大震災の影響で急減した外国人観光客が回復傾向にあるとの報告があった。

また、金融緩和や緊急経済対策による5兆円超の公共投資の執行などが追い風となり、業況の好転が期待される報告があった。

今後、原材料や燃料価格の高騰に加え、5月からの電気、ガス等の公共料金の値上げが消費マインドの低下も懸念されるが、明るい兆しもあり県内の景気回復に期待したい。

## ■ 業界の声

情報連絡員には、景気動向の変化、現状とその背景などについて、業界または組合員全体の動向・予測(売上高・原材料等経費・資金繰りなど)についてコメントを求めた。

### ● 製造業

食料品（水産物加工）	自社製品のギフトや土産品、生鮮等の仕入商品の取扱いが低調のため前年同月比96%。また、円安の影響で輸入原料の価格が上昇しているため中元商品への影響を懸念している。
食料品（洋菓子製造）	大手スーパーやコンビニ向け商品は好調だったが、OEMは在庫調整の影響から低調であったため前年同月比101%。今後、小麦粉や砂糖、包装資材の値上がりが予想されており収益圧迫の要因となりそうである。
食料品（製麺）	原料の値上がりによる売価への転嫁について検討している。
食料品（菓子）	収益が悪化している。
繊維・同製品（アパレル）	初夏物の受注は順調だが、業況が好転したとまでは言えない。

木材・木製品製造	輸入材の高騰が止まらない。
家具製造	経営内容は、昨年同月に比べ好転している感がある。しかし、これは消費税の増税や諸物価の高騰前のかけ込み需要と捉えている。
紙・紙加工品	前年度と比較して5%以上売上が落ちこんでいる。
印刷	低水準で推移している。
窯業・土石（砂利）	燃料費や電気代の値上がりにより昨年同月に比べ収益が悪化している。
窯業・土石（生コン）	売上高、出荷量は、前年同月比71%と依然として厳しい状況である。電気料金や燃料費の増加に加え、4月よりセメント及び骨材価格の値上げの予定もあり価格転嫁を検討している。今後、公共工事の発注が増してもコンクリートの需要が増えるとは限らず、社会インフラ等の整備には不可欠な生コンクリート業の衰退が危惧される。
鉄鋼・金属	今年に入って月を追う毎に悪化している。
一般機器（1）	工作機械部品加工は依然低調。親会社の在庫調整に見通しがつけば動き出せると予測する。
一般機器（2）	既存の仕事が減少。
電気機器	受注の下降は止まらない。
電気機器	プレス業界やモールド業界等は受注が落ち込んでる。また、自動車関係や半導体関連もここ2～3ヶ月は受注が減少傾向にある。
その他（貴金属①）	海外の輸出が増えつつある。
その他（貴金属②）	「アベノミクス」の影響から円安となり金相場が上昇しているため、資金繰りが難しい。

● 非製造業

卸売（塗料）	円安効果で石油化学を中心にメーカーや卸元から輸入品の値上げ予告等が先行して出てきている。
卸売（紙製品）	円安に伴う、諸物価の値上りによりさらに収益を圧迫している。
小売（青果）	大型店の広告等の影響で利益、売上ともに減少傾向にある。
小売（食肉）	牛肉は、依然として高値安定傾向で推移している。しかし、米国産牛肉の規制緩和により、焼肉市場の伸長に期待したい。
小売（水産物）	マスコミなどで景気が上向いたような報道があるが、水産物業界は悪化傾向にある。また、小麦粉や油等の値上げがいつになるか懸念される。

小売（電機製品）	春の展示会や販促活動が実り前年同月比135%となった。しかし、テレビは依然低調。メーカー間格差が一段と目立っている。3月になり太陽光発電やLED等が順調に推移し売上に貢献した。
小売（石油）	中東原油価格が円安ドル高により高騰したが、イタリアの政情不安により円高傾向に転じ原油価格が若干値下がった。
商店街(1)	商店街で行う土曜日のイベントが好調のため売上が前年を5%以上も上回る組合員がある一方、マイナスの組合員も少なくない。
商店街(2)	来街者が減少している。また、中心商店街の飲食店と駅前飲食店で客の奪い合いが起きている。
宿泊業	年々、受験生の地元志向が強まり受験生の宿泊が例年より一層減少した。しかし、中国からの観光客は徐々に戻り始めているため業況は昨年同様となった。
美容業	季節柄、来店客数並びに客単価が上昇傾向にある。特に、若い世代は客単価が上昇している。
廃棄物処理（事業系）	燃料費の高騰は、営業努力では吸収できず、今後は、排出事業者に値上げの依頼をしなければならないところまで来ている。
建設業（総合）	平成24年度の補正予算に伴い、国、県の公共工事発注が増加。今後、人材不足や建設機械の需要増加、資材及び労務費の高騰が積算単価に反映できるかが課題となる。
建設業（鉄構）	本業より鉄骨等の加工物件が増えてはいるものの、価格が安いため、売上増には繋がらない状況である。
設備工事（電気工事）	政府の経済政策が建設業にとって良い方向に向かおうとされているが、山梨県にはまだその効果は表れていない。適正な仕事量を迅速に供給してくれなければ会社の経営状況は非常に苦しく、建設業の人口は減少傾向にある。
設備工事（管設備）	国交省より平成25年度公共工事設計労務単価が平均15.1%上昇した。
運輸（タクシー）	昨年に比べ売上が大幅に減少した。物価上昇により経営は一段と苦しくなると予測する。
運輸（トラック）	安倍政権の経済政策「アベノミクス」を背景に円安・株高が進み経済が上向きと言われているがまったく実感はなく、逆に円安により燃料価格が高騰し経営を圧迫している。